



がんばった南っ子

祝 修了

祝 卒業

## 卒業式



3月18日（火）、67名の卒業生が南小学校を巣立ちました。卒業生は、一人一人が自信をもって堂々と卒業証書を受け取り、心を込めて「お別れの言葉」を述べ、きれいな歌声を響かせました。6年間で体も心も大きく成長した卒業生には、中学校でも、その後も、豊かな未来へ南の風を吹かせてもらいたいと思います。



## 修了式



3月17日（月）、放送室で修了式を行いました。各学年の代表児童が修了証書を受け取りました。

真剣に臨む姿に、1年間の大きな大きな成長が感じられました。

## たいへんお世話になりました

この度の人事異動で、次の職員が退職・転出することになりました。

|      |       |    |
|------|-------|----|
| 養護教諭 | 千葉いずみ | 退職 |
| 教諭   | 熊谷 佳子 | 退職 |
| 教諭   | 佐藤 純子 | 退職 |
| 教諭   | 小岩 光哉 | 退職 |
| 講師   | 菅原 真幸 | 退職 |



|         |       |    |             |
|---------|-------|----|-------------|
| 校長      | 山村 淳  | 転出 | 八幡平市立柏台小学校へ |
| 副校長     | 梁瀬 太志 | 転出 | 盛岡市立見前南小学校へ |
| 教諭      | 千葉美紀子 | 転出 | 一関市立花泉小学校へ  |
| 教諭      | 佐藤 昭子 | 転出 | 一関市立川崎小学校へ  |
| 講師      | 岩間 泰子 | 転出 | 一関市立花泉小学校へ  |
| 学校サポーター | 小野寺久美 | 転出 | 一関市立一関中学校へ  |

子供たち、保護者の皆様、地域の皆様のおかげで、楽しく充実した時を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

子供たちのさらなる活躍と南小学校のますますの発展をお祈りいたします。本当にありがとうございました。



## PTA 会報「みなみ」 校長挨拶文より

子育ては、本当に悩むものですね。うれしかったこと、つらかったこと、……様々ありました。子育てに悩んだ親の一人として、思ったこと、感じたこと、考えたことをまとめました。

## 「モノを与えない工夫」

この4月、26年ぶりに、釣山公園で花見散歩しました。前に釣山の桜を見に行ったのは、私の長男が磐井橋の近くの病院で生まれ、妻と赤ちゃんが入院している時。義理の母と妹と3人で、病院の帰りに夜桜を見に行きました。満開の花に、しみり感動したことを覚えています。

そして、26年前から、覚えている言葉があります。それは、当時、私が勤めていた矢巾町立K小学校の女性の教頭先生からいただいた言葉です。「もし、あなたの子供がどうなってもいいのなら、子供が欲しがるモノを何でも買って与えなさい。そうでないのなら、与えないことを考えなさい。」と。少し、厳しい言葉ですが、便利な世の中だからこそ、何でも買って与えるのではなく、モノを与えない工夫も必要ということを教えられました。

家庭と学校と一緒に、工夫しながら悩みながら、南小の子たちを「あかるく かしく たくましい」子に育てていきましょう。

令和4年7月

## 「12歳夏のチャレンジ冒険」

長女が12歳の時、盛岡から一関まで自転車100km走破にチャレンジしました。中学生となって初めての夏休み、何か達成感を持つことができるような思い出を作りたいと考え、娘と相談し決めました。私と長女は朝4時頃、自転車2台で盛岡の家を出発。一関の妻の実家（三関）を目指し、国道4号線を南下。途中、コンビニなどで何度も休憩しながらペダルを漕ぎ続けました。長男（高校1年生）と妻は、車で9時頃出発し、一関に向かいました。私たち自転車チームは、水沢の辺りで、車チームに追い抜かれてしまいましたが、お昼頃、無事に一関の実家に到着することができました。（ちなみに、私はお昼を食べた後、一関夏祭り「くるくる踊り」に職場「一関合庁」として参加し、クッタクタでした。）

この半日のチャレンジ冒険は、娘にとって大きな自信につながったようでした。娘は中学では陸上部、高校では登山部に入り、社会人となった今でも時間を見つけては、山登りをする「山ガール」です。

令和5年7月

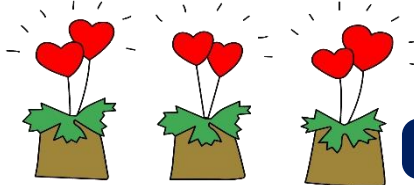
## 「我が家のルール・工夫『こころを使う』」

「子育て」は、悩むものですね。「友達に、いじわるをしていないか（されていないか）」、「どうしたら、片付けをするようになるか」、お手伝いのこと、勉強のこと、…。長男・長女が小学生の頃、私が本屋さんで手に取った一冊は、河合隼雄さんの「Q&A ころの子育て～誕生から思春期までの48章～」という本。作者は、臨床心理学の第一人者。この本の中に、気になる言葉がありました。「昔は、ころを使うことをそれほど意識しなくても、物がなかったし、食べていくので精いっぱいだったから、知らず知らずにころを使ってたんです。…[中略]…だから豊かな時代には、子どもに楽しみを与えるにも、それぞれの家でコントロールしていかなければならない。工夫が要るんです。それがころを使うということです。」と。

自分が小学生の頃は給食メニューを見て、「今日は揚げパンだ」、「デザートはプリンだ」というだけでうれしくなったり、クリスマスの日には「晩ご飯に骨付き鶏もも肉が食べられるぞ」、「食後にはケーキだ」というだけで、ワクワクしたりしたことを思い出しました。そこで息子と娘に、好きな食べ物を聞いてみました。すると二人とも、ころが躍る答えが返ってこなかったのです。これまでの自分の行動を反省しました。私はおいしいものに目がなく、ついつい いつでも、食べたい時に食べたい物を買ってくることが多かったのです。

妻と相談し、「我が家では、ケーキを記念日のみ食べることができる」というルールを作りました。家族4人の誕生日と結婚記念日とクリスマスの年6回、ケーキを食べることができることに限定したのです。おかげで子供たちは、ケーキをとてもしみにするようになり、自分だけでなく家族の誕生日等も大切にするようになりました。

ただ私と妻は、今でも時々ケーキが食べたくないと、「今月はおばあちゃんの誕生日」、「姪っ子の誕生日」とか、こじつけて、こっそり食べています。



令和5年3月



### 「山村憲法」

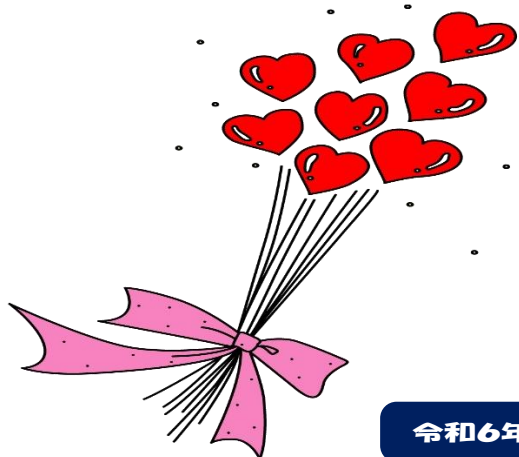
我が家には、三カ条の「山村憲法」があります。長男が小学校に入学した時に発布しました。

- 一 弱い人を馬鹿にするような人になるな。
- 二 友だちを裏切るような人になるな。
- 三 自分の弱さをごまかすためのウソをつくな。

この三カ条は、私の好きな小説家 遠藤周作さんが息子さんと約束した三原則を、我が家向きになおしたものです。遠藤周作さんは、エッセーの中で次のように書いています。「私はいわゆる小利口な子供に自分の息子になってもらいたくなかった。自分だけが正しいと信じて他人を高みから裁くような偽善者にはなってもらいたくなかった。外観や貧富や社会的地位だけで他人を評価するような男にもなってもらいたくなかった。これらの三つは生涯、男として生きる原則だと思っているので、それを子供向きになおしたのが先にあげた三原則なのである。」

私は自分の長男・長女にも、周作さんと同じ願いをもって、この「山村憲法」を発布しました。

※「遠藤周作さん」は私の好きな作家です。ちなみに長男の名前は、「周作さん」の名前から「周」の一字をいただきました。



令和6年7月

### 「汚い仕事は尊い仕事」

我が家の息子・娘が小学生になった時に、与えた仕事があります。それは、トイレ掃除です。6歳の子供たちにも、家族の一員として何か役割を担ってもらおうと妻と相談しました。玄関掃除、靴揃え、お風呂掃除、干した洗濯物の片付け、テーブル拭き、食器の片付けなど、どの仕事にしようか迷いました。

そんな時、作家・曾野綾子さん※のエッセーにあった言葉を思い出しました。それは、「私は小さい時に母から『世の中で、汚くて嫌われている仕事をするのが、ある意味で最も尊い仕事です』と習いました」という言葉です。これは、「汲み取り式トイレの糞尿を回収するバキュームカーの運転手」「臭い、汚い仕事で、なり手がなく」等の話からつながる言葉でした。

小学校に入学した最初の休みの日、子供と一緒にトイレ掃除をし、掃除の仕方を教えました。そして、これからは君たちの仕事であることを宣言し、親の願いも伝えました。自分の手を汚して働く人になってほしい、と。しばらくは一緒に掃除をし、だんだんと子供だけに任せるようにしました。時々チェックして、汚れているところは再度やって見せ、掃除のし直しをさせることもありました。

今年度、南小学校の重点の一つに「清掃指導の徹底」を加えました。一生懸命みんなのために働く児童を見ると、とてもうれしく感心させられます。近ごろ、特にきれいになったと感じている場所は、3年生や4年生教室隣の男子トイレです。

今、我が家の息子・娘は社会人となり、それぞれの生活を歩んでいます。高校生（18歳）までの12年間、子供たちが我が家のトイレを掃除し続けてくれました。今はまた私の仕事にもどり、土日には、盛岡の家のトイレ掃除をしに帰っています。もちろん、一関のアパートのトイレ掃除も頑張っています。

※「曾野綾子さん」は私の好きな作家の一人です。ちなみに娘の名前は、「曾野あや子さん」の名前から「あ」の一字をいただきました。

令和6年3月

### 「我が家の『メディアルール TPO』」

「ゲームが欲しいな」と小学生の頃の長男から、遠慮がちに言われた。「ゲームがとても楽しいことは分かる。欲しい気持ちも分かる。でも、お父さんだったら、ゲームの楽しさに負ける自信がある…」と悩みながら返答した。結局、我が家では、ゲームを与えないことにした。

子供たちが高校生となる春、携帯電話（スマホ）について家族で相談した。今回は親の方から、買い与えることを前提に。ただ、ゲームと同様に、私だったらスマホの楽しさに負ける自信があったため、家族4人で使い方について話し合った。スマホのいいところと心配なところを。「楽しい、便利、情報がいっぱい…」「時間が過ぎるのが早い、依存、バーチャル…」など。そこで、ルール作りをすることとした。みんなでルールを出し合い、グループ分けをした。すると、「時間(Time)」と「場所(Place)」、「その他(Other)」に分けられた。そして、「山村家のメディアルール TPO」が出来た。

我が家では、食事時間や食事場所でのスマホ使用は禁止されている。今でも、急な用事や確認したいことがある場合などは、家族に断ってからスマホを開いている。ただ、就寝中のスマホの置き場所については、居間に置くルールだったはずだが…。発達段階に応じてルールの見直しが必要そう。

ここでちょっと、お医者さんからの「映像メディアと脳」のお話。ゲームやテレビ、スマホ等をしている時、後頭葉は活動するが、前頭葉の活動はない。前頭葉というのは、「人間の脳・心のあるところ」と言われ、「注意力、集中力、判断力、気力、抑制力、笑顔」の脳。前頭葉は、やらなければいけないことを我慢してやったり、やってはいけない行動にブレーキをかけたり、善悪や価値判断をする最も重要な部分、とのこと。

南小の子たちにも、メディアと上手に付き合ってもらいたい。笑顔を大切にしてほしい。心豊かに育てほしい。みなさんのご家庭でも、家族で話し合ってみませんか。〇〇家メディアルール TPO。

令和7年3月